

令和5年度射水市中小企業・小規模企業振興会議 会議概要

【日時】令和6年1月30日（火） 午前11時から

【場所】射水市大島分庁舎 大会議室

【出席者】

会長 中村 和之（富山大学副学長）
副会長 八嶋 祐太郎（射水商工会議所 副会頭）
委員 若林 啓一（射水市商工会 副会長）
小杉 奈津子（射水商工会議所 女性会会長）
八箇 かの子（射水市商工会 女性部長）
橋本 雅文（アイシン軽金属株式会社 執行幹部）
田仲 聡（射水青年会議所 理事長）※オブザーバー参加
宮田 雅人（射水市地域振興会連合会 会長）
成瀬 敬雄（連合富山射水地区協議会 副議長）
浦嶋 竜也（高岡公共職業安定所 所長）
亘 建邦（北陸銀行小杉支店 支店長）
小林 正良（日本政策金融公庫 高岡支店長）
加藤 賢一（富山県立大学地域連携センター 産学官連携コーディネーター）
小竹 信成（射水市中学校校長会 会長）

（欠席）

長慶 清（新湊信用金庫 本店営業部長）

加藤 健（富山県新世紀産業機構 次長）

（事務局）

射水市産業経済部長 塩谷 明永

産業経済部次長 福井 有希夫

産業経済部次長 作道 賢次

商工企業立地課長 盛光 寛人

商工企業立地課商工労政係長 奥井 栄作

商工企業立地課商工労政係主査 松下 優子

商工企業立地課商工労政係主事 杉森 慶子

射水商工会議所事務局長 向田 真理

射水市商工会事務局長 篠田 千春

【会議概要】

1 開会

2 説明事項（※項目毎に事務局説明のうえ、随時「3意見交換」を行う形で進行）

(1) 物価高騰に係る生活支援・緊急経済対策

（委員）

「射水まるごとデジタル応援券」の委託事業者が県外事業者であるが、県内・市内事業者を使うことは技術的に難しいのか。

（事務局）

難しいかどうかわからないが、我々にとって初めての取組であり、全国的な実績面での心配もあった。提案を受けたところもあり、今回は複数者ある中から選ばせていただいた。県内でも不可能ではないと思う。できれば市内企業でできることがベストだが、安全策を取らせていただいたところである。

（委員）

今回の「射水まるごとデジタル応援券」事業は、事業者の手間や負担がほとんどかからなかった。SDGsの観点からも商品券の紙代や郵送料の削減もできた。アプリも他市のものと比較し、使いやすいと感じた。また、仕様を変更すると、開発費がかさむことから、今後も、このままアプリを使い事業を行っていただきたい。

（会長）

使い勝手のよいアプリを使い、少しでも売る側、買う側のエビデンスを高め、少しでも利便性が高まるものを作っていただきたい。そういうものを市内の事業者が作れるよう、サポートができるのであればサポートしていかなければいけないのではと考えた。この点は中小企業の振興策とも関係するかもしれないが、課題としてとらえていただきたい。

今回はアプリにしたため、販売数が減少したものの、それでも余りあるメリットがあったと感じられる。定着させていくことも大事かと思う。定着のために何が必要かという点もまた検討していただきながら続けていただきたい。

(2) 令和5年度 主な施策の取組状況と目標値の達成状況

《事務局 資料説明》

(委員)

資料2 P.4 市内企業団地分譲率について、分譲率だけではなく、どれだけの面積のうち、何平米分譲されたのかについても記載していただきたい。

(会長)

加えて、何社進出しているのか、何人雇用できたのか記載内容を工夫されたらよい。

(委員)

資料2 P.3 「(4) 宿泊施設立地促進助成の実施」とあるが、助成対象はどのような施設なのか。

(事務局)

民間が建設する宿泊施設の建設費を助成するものであり、本市への宿泊施設の進出促進を図るものである。近年では、スーパーホテル、第一イン新湊、太閤の湯が助成を受けられた。なお、アイタウン射水に進出予定のルートインホテルについても、工事費は未定だが、助成対象になると予想される。

(委員)

宿泊施設の誘致に併せ、各宿泊施設を起点とした観光施策の充実も図っていただきたい。また、企業誘致のような有形資産を形成する施策だけではなく、射水市で働き、暮らすことで人としての幸せを感じられるような、人のつながりや趣味など無形資産も育むまちづくりを進めていただきたい。

(会長)

ご指摘いただいたところは大変大事なところである。どの自治体でも女性が首都圏に流出している現状がある。いろんな人が働けるよう多種多様な業種の企業の誘致を進めていただきたい。高齢化・人口減少が続くなか、社会や地域にける、人々の信頼関係・結びつきを意味する、ソーシャルキャピタルの概念は非常に大切であり、中小企業振興に取り入れていただければと思う。

(副会長)

資料2 P.2 に掲載の産学官金共同研究の年間件数について、共同研究件数だけではなく、相談件数の数値は把握しているのか。

(事務局)

研究の件数のみ把握している。相談だけであればこの何倍もあるかと思う。

(副会長)

共同研究件数を増加させるには、まず、機関に相談へ来てくださるとアピールすることが大切である。そうすることで、共同研究へのハードルを下がり、共同研究に繋がるものとする。相談件数についても指標として掲載してはどうか。

もう一点。今回の計画を作られるベースになったのはヒアリングかと思う。企業ヒアリングは、毎年毎年、継続して実施していただきたい。今回、振興計画の策定のため、ヒアリングを実施されたが、策定が完了してから、今後はヒアリングを行わないというのではなく、市内経済の現状を把握し計画を適宜見直す際の根拠となる。時間や手間はかかると思うが、継続していただきたい。

(会 長)

研究に至る前の段階の相談が、ハードルを下げた形で気軽にできること。大学と直接相談ということもあると思うが、ビジネスサポートセンターに行けばそこにつながっていくというような流れが大事である。

(事務局)

了解いたしました。

3 意見交換

特になし

4 その他

特になし

(会 長)

事務局におかれては、本会議で頂戴した意見を参考に各施策の企画・立案・実施に反映していただきたい。新年の地震の影響もあり、市民生活や中小企業を取り巻く状況は厳しいものがあるが、企業の自助努力は基より、市当局のサポートも非常に大切である。地域社会が一丸となって地域経済を支えていていただきたい。

5 閉 会

午後 12 時 00 分終了